

で安心してしまふのは形式主義的で
かない。そのまま新しい状況を生む
ことは困難である。学校の時間感覚は
まだまだ固定的で生き生きとしてい
いと感ずる。話が逸れるが、最近、声
高に言われる教育相談等についても賛
否の立場があるものの、そのいずれも
が学校生活へ適応させるための方法と
考えているが、そこにはやはり学校と
いうものを固定的にとらえる点で問題
がある。

このように私たちは、ともすると時
間でさえ単純化し平板にとらえてしま
う。その場の状況や物事の複雑さを都
合にあわせて割り切ってしまうがちで
ある。時間の性急さに追われながらも
どこかでその性急さに合った認識パ
ターンにひかれていく。

教育の場では「長い目」で見ること
がよく強調される。だが現実には、前
述のようなパターン化の中で、短期予
測的視点で生徒を見ている。よく生徒
に対し、その未来展望の中で今をどう
生きるかが問題となると言う。しかし
直線的時間というか、因果論的結果
というものがすぐ出ることを期待して
しまっている。

過日の授業で環境破壊の話をした時、
地球の歴史を一年の長さに置き換えた
ものを提示した。人類の出現は十二月
三十一日午後八時、文明と呼ばれるの
ものは十一時五十九分、自然科学の発
達はまさに一年も終わらんとする二秒前
のことである。このわずかに二秒で、私

たちは地球の歴史を大きく変え、地球
そのものを失いかねない状況をつくつ
た。未来をひらくための努力があまり
にも予想外の結果を生んでしまったの
である。

私たちが物事を考える際に、固定的
で一方的な視点はむしろ理解の妨げに
なることが多い。たとえば、かつて蔽
しすぎる父親が非行の原因とされたの
が、今では父権喪失、甘すぎる無関心
な父親の問題が指摘されているのであ
る。にもかかわらず直線的で短時間的
物の見方が学校でも多い。学校自体を
時間軸上で問い直してみることが必要
である。単に現実を忘れるのではなく、
また、ただの復古的郷愁に陥るのでは
なく、流れや変化を意識的にとらえた
視点が求められるようになったのかも
しれない。これからも時間とともに自
分の信条や教えようとするものを考え
て行きたいものだ。

(県立矢吹高等学校教諭)

訂正

前号教育ひとクモ「職員の勤務を要しな
い日」の中で、「県費負担教職員の勤務を要
しない日等の取扱いについては、県立学校職
員の例による」とありますが、市町村立学校
栄養職員については、市町村職員との関連等
を考慮し、従前同様事務職員等と同じく取扱
うこととなります。

行事あんない

奥の細道文学セミナー

文化課

松尾芭蕉が元禄二年に「奥の細
道」の旅に出て、今年でちょうど
三百年になります。

これを記念する行事が東北を中
心に全国各地で開催され、芭蕉の
芸術や生き方、そして東北の文化
と歴史に対する関心が高まってい
ます。

県教育委員会では、これを機会
に、「奥の細道三百周年記念事業
文学セミナー」を開催します。

文学を志す方、地域における文
化活動指導者及び、広く一般の文
学愛好者をも対象に、講義と質疑
応答によって、芭蕉の業績や文学
と人生についての理解を深めよう
とするもので、詳細は次のとおり
です。

場所 郡山市民文化センター

(五階) 集会室

内容 講演と質疑応答

松尾芭蕉による「おくのほ
そ道」の旅から三百年を教え
るの機会に、その偉大な文
学芸術的業績や郷土福島の祖
先と文学とのかかわりをしの
び、現代に生きるわれわれ自
身の人生に思いをいたす――

◎講演

「芭蕉と奥の細道」

・尾形 仂(成城大学教授)

東京生まれ。東京文理科大
学卒。東京教育大学教授を
経て現職。主著・「松尾芭
蕉」(日本詩人選十七)、「座
の文学」、「芭蕉・蕪村」、「俳
諧史論考」など。

「福島県と奥の細道」

・横井 博(日本大学教授)

郡山市生まれ。東北大学卒。
日本大学教授・日本大学東
北高等学校校長。主著・「印
象主義の文芸」、「対訳源氏
物語」、「ふくしま奥の細
道」、「芭蕉と歌枕」など。

奥の細道三百周年記念事業

文学セミナー

日時 平成元年七月八日(土)

午後一時から

入場無料